

TAKE FREE

Vol. 3

spring 2023

# 新

だ  
ち  
が  
ら  
新  
聞



各店で捨てられていた布や紙を  
寄せ集めてパッチワークした  
「ローカルバッグ」は、この世に  
ひとつしかないオリジナルバッグ。  
「つながり」が生んだ一品。  
produced by ナナシノ商店街



ADACHIKARA NEWSPAPER



# あだちからなひと



ひとつの小さな思いつきから。  
ひとりの小さなワクワクから。  
誰かにそれを話してみることから。  
ドキドキ一步を踏み出すことから。

目にする素敵なことは全部、  
そんな小さなアクションから始まっています。

「あだちから新聞」は、  
みんなのワクワクからスタートした  
足立のまちの素敵なことを

「ひと」にスポットをあて、ご紹介しています。

足立区制90周年に送る今号は、

「つなぐ」「つながる」をテーマに取材しています。

この新聞が、あなたの次の一步につながることを願って。



「ごみ拾いに行くときは、散歩行くよとか、公園行くよって誘いますね」。そう話すのは、4歳の長男陽大(ひなた)君と親子で清掃活動を行っている綾部尚子さん。

親子で清掃活動を始めたきっかけは、陽大くんが通う幼稚園の友達が、区のソロクリーン活動に参加してもらった「マイトング」を持っていたこと。「ぼくもほしい!」。陽大君の一言で綾部さん一家の清掃活動がスタートした。

陽大くんお気に入り、「マイトング」を持ち、親子でどちらが多くごみを拾えるか競争する。「せっかくなら楽しんでやりたいと思って」。陽大くんはゲーム感覚で、夢中になってごみを探す。まだ1歳半の次男もいて、2人の子育てに奮闘しながら仕事もする綾部さん。「遊びがマンネリ化してきた」と話す。そんな日常の中でごみ拾いは、新しく見つけた「もう一つの選択肢」。同時に陽大くんにとっては大好きな「遊び」となっている。

「家族だけでなく、お友達と集まってやったら楽しいと思うんです」。楽しみながらやる綾部さん流のごみ拾いを広めていけたらなあ、と考えている。

「ボイ捨てるような大人にだけはなって欲しくないんです」。親から子へ。遊びながらのごみ拾いを通してきっとこの想いは紡がれていくことだろう。

## ゲーム感覚でごみ拾い

ビューティフルパートナー / 綾部尚子 & 陽大



足立区地域のちから推進部  
地域調整課 美化推進係  
☎ 03-3880-5856



この日は近所の公園までの道すがらごみ拾い。変顔を大披露してくれながら、陽大くんはごみを見つけたら素早くトングで拾い上げていた





花畑大鷲神社獅子舞保存会

## 江戸時代の獅子舞を若い世代へつなぐ



足立区生涯学習支援室  
地域文化課 文化団体支援係  
☎ 03-3880-5986

相談役の藤田倉夫さん(右)と会員で花畑大鷲神社権禰宜の濱中貴文さん(左)。江戸時代から伝わる獅子頭が珍しいのか、撮影していると参拝者に声をかけられた。写真(下)は1935年(昭和10年)ごろ。代々、受け継がれてきた



テープレコーダーから流れる笛の音に合わせて舞ってみた。でも、やっぱりうまくいかない。「舞」と「笛」はその「間」が大切で、笛方は舞を見て吹き、舞手はその笛に合わせて舞う。その生きたやり取りが大切なのだ。

江戸時代元禄期から伝わると言われる花畑大鷲(おおとり)神社獅子舞は、「雨乞」「五穀豊穣」「悪疫退散」「天下泰平」を祈るもので、古くから鷲宿村に伝わるものだ。足立区指定無形民俗文化財でもある。いつときそれを継ぐ人が減り、笛方をテープレコーダーに変えてみたのだが、うまくいかなかった。そこで、先輩を頼って伝授を願い、舞手も笛の練習から始めた。口伝では継承が難しいと考え、10年近くの年月をかけて「笛曲譜(笛方の楽譜)」も作成した。

獅子舞は鷲宿村内の長男しか継げない、養子もダメ、女性もダメという昔からの「決まりごと」をなくすことにもチャレンジした。他の地域に住む人、女性、子どもにも獅子舞参加の輪を広げていった。今、保存会には40人以上の会員があり、毎年7月に獅子舞を奉納している。

他の地域から加わっている会員は「子どものころから笛や太鼓の音が耳について、どうしてもやりたかった。参加できていることがとてもうれしい」と語る。「もっともっと多くの人に知ってほしいし、次の世代につなげていきたい。そのためにも外へ発信していくことにも力を入れたい」と鈴木友行会長。

「好きだからやってみよう」という人を増やすために、学校の周年記念行事に出向いたり、子ども会と協力して子どもの参加も募り、会員には中学生や高校生も加わっている。まだ課題は多いが、確実に若い世代へと「たすき」はつながっている。



共同書店 編境  
▲ 足立区千住仲町25-2

共同書店編境で本を読む山本さん。りんご箱を使った素朴な本棚は、棚ごとに異なる棚主が借りており、棚主ごとの個性あふれる展示が楽しい



## 共同書店編境店主 / 山本 遼 シェア書店、 そして千住浪漫シティ

「4年住んでるけど、このまちに友達、誰もいないんです」。

共同書店「編境」に来たある若者がそう言った。「編境」は誰でもふらっと立ち寄れる本屋。「本を売る」ことより、「近所のつながりをつくるのが目的」と店主の山本さんは話す。店内に約30ある木製の本棚は、約30人の棚主が本を並べる「シェア」書店だ。

ふらっと立ち寄って1時間くらい話していた一人暮らしの76歳の女性は、「コロナで2年くらい人としゃべってなかったという。「まちに、誰でも来やすいって言える場所ができれば、いいなって思うんです」。

山本さんは、高齢者向け賃貸住宅を扱うR65不動産を経営する。「R65不動産では家電で高齢者を見守る仕組みを提供していますが、まちに見守る仕組みがある方がもったいない」。

都内でシェアハウス15軒を展開する事業家でもある山本さん。15軒のうち5軒が千住にあることから、千住という「まち」に目を向けるようになったという。シェアハウスを出ても千住に住む、「もと住人」が増えたことから、みんなが集える「まちのリビング」のような場所をつくりたいと考えた。ちょっとシャイだけど、本が好きな山本さんにとっては「本が間にあると、人と話しがしやすい」。

千住には、新しいことをやりたいと思ったときに関心を持ってもらえる、応援してもらえる土壌を感じてきた。「不動産」に向いていた関心が「まち」に向くようになって今思うことは「みんなが挑戦できる土壌をつくりたい」ということ。

大学生がアートギャラリーを始めたという夢に、大家となる形で手を貸し、2021年に誕生したのが「ギャラリー PUNO」。挑戦したい人の後ろ盾になることで、10年で10軒のシェアハウス、10軒の「PUNO」のような拠点をつくりたい。

それを「千住浪漫シティ構想」と名づけ、山本さんの次のチャレンジがスタートしている。



五反野路地裏エリア

個性派ショップが増える五反野路地裏

「したんじじゃないよ。こたんのだよ。エモアあるフリーズで盛りたてる五反野駅前の商店街。メソ通りには50年近く続いている店があるなか、路地裏や駅から少し離れた立地に最近個性的な新しい店が増えている。

「五反野のことは知らなかった」と話すのは、ここヨーロッパの街角を思わせるパン屋「Tempus (テンプス)」の大野陽平さん。

専門学校卒業後はドイツに渡り修業、その後神奈川県と東京を中心にパン屋で働いた。自分のこれまでの経験や思い、人との交流など20年近く過ごした時間を形にして表したい。店を持ちたい。そう思い、初めて物件を見たのが五反野だった。駅から店までの道を歩くと、幼稚園から子どもが楽しそうに遊んでいる声が聞こえる。「ゆったりと落ち着いた雰囲気だな。全く知らないまちになんている自分がいた。運命的なものを感じ、この場所を決めた。

店を続けるなかで「日常使いしてもらえら飽きのこないパンを、このまちの人に食べてもらいたい」と思うようになった。

「コロナ禍で苦勞が多いのも事実だが、3年を経て常連客が増え、店内のスペースを絵の展示やワークショップのスペースとして貸し出したり、飲み仲間もできた。「五反野の好きなところは人が温かい。」

広々とシンプルな内装が落ち着く、イタリア料理店「SATHI KITCHEN(シャティキッチン)」オーナーシェフのコンドレ・エムティ・サディオ・ラーマさんも五反野のことは全く知らなかった。

Bangladeshから来日して、日本のイタリア料理店で修業後、自分の店を出したいと思ったとき、不動産会社から紹介されたのが五反野だった。

周辺を歩くと、コロナ禍で入通りが少ない。本当にここで店ができるのか不安だったが、今では常連客が増えた。お客さんに「美味しくて雰囲気いいイタリアンが五反野になかったのうれし」と言われ、ここでがんばっていかうと思っ。

五反野路地裏には他にも、全国のこだわり野菜の販売などを行う古民家DJブースがある酒屋などエッジの効いた個性派ショップが目立つ。駅から徒歩圏内で広さの割に家賃が抑えられることもあり、実力派起業者の出店が増えている。このエリアから今、目が離せない。



**Tempus**  
 足立区足立2-7-7-101  
 ☎ 03-6883-4397



朝の3時半から仕込みを開始し、毎日30種以上のパンが並ぶ。イートインスペースも。隣にやはり若い世代が開業した「ゆるり珈琲」があり、ここで購入した自家焙煎珈琲の持ち込みもOK。写真(上右)の右側がTempus、左側がゆるり珈琲



オーナーシェフのコンドレ・エムティ・サディオ・ラーマさんです。18才で来日し、イタリアで数年の経験を経て、5反野路地裏にこの店を開業しました。写真(上右)の右側がTempus、左側がゆるり珈琲



**SATHI KITCHEN**  
 足立区足立3-9-7 2階  
 ☎ 03-5888-5656

Bangladesh人夫婦が営むイタリア料理店。店内はシンプルでおしゃれな雰囲気。2階にあり少し見つけづらいが、リーズナブルで美味しいと、地元ファンが増えつつある



**古民家「野菜日和」**  
 足立区弘道1-14-10

月に一度の青果販売、全国の農家との交流会のほか、足立区浴場組合とのコラボで旬の果物などを使う香り湯も手がける。駅から遠くないのに、まちなかとは思えない広々とした庭のある古民家に夫婦で住みながら活動が続ける



**ぶんこ食堂**  
 場所/文教大学東京あだちキャンパス食堂  
 足立区花畑5-6-1  
 日時/毎月第2日曜日午後0時30分整理券配布、1時弁当配布  
 ※月によって開催週に変更あり

「ぶんこ食堂」は、今では花畑のさまざまな団体や人がつながり、開催されている。写真(右下)はこの日の弁当。野菜たっぷりの豚汁、寄附を受けた果物、地域施設で折った折り紙の装飾など、心のこもった弁当が提供されていた。写真(下)は内田さん(右)と鍋岡さん(左)

「ぶんこ食堂」は、今では花畑のさまざまな団体や人がつながり、開催されている。写真(右下)はこの日の弁当。野菜たっぷりの豚汁、寄附を受けた果物、地域施設で折った折り紙の装飾など、心のこもった弁当が提供されていた。写真(下)は内田さん(右)と鍋岡さん(左)

# HANAHATA

**ぶんこ食堂**  
 みんなでつくる、みんなの食堂

「1日3食満足に食べられない子どもが日本にもいる。その事実を知った文教大学国際学部4年生の内田イオナさんは、令和3年4月に開設した花畑の新校舎で「ぶんこ食堂」を始める決意をした。ただ、高齢化率が3割を超えるこの地では、お年寄りの居場所もあるとい。食堂は老若男女に開かれ、みんなの居場所を目指す。

活動から1年経ち、食堂は毎月盛況だ。しかし、それは学生の力だけではない。食材の調達、運搬、調理補助など、活動は多くの人の支援で成り立っている。

「みんなの居場所をつくる」という目的は俺たちと同じなんだから、力を合わせなきゃ」と、花畑地域で長年様々な活動をしている山本一喜さんは話す。他にも、子ども食堂の運営者、近隣の放課後等デイサービスの生徒など、日頃接点のない人たちの思いを「ぶんこ食堂」がつかぎ、地域の人たちにお弁当が届いていく。

大学生活は4年間。後継者の引き継ぎは避けて通れない。内田さんから代表のバトンを受け取った文教大学3年生の中村夏鈴さん、鍋岡玲奈さんは先日初めて新世代主導で食堂を開いたんです。が、至らない点だらけでした。でも終わった後に先輩たちから「初めてのことも多かったけど、がんばってね」と声をかけてもらった。うれしかったです。先輩たちが作った、楽しくて優しい雰囲気を後継者に受け継いでいきたいです」と話す。

これからもずっと、文教大学は花畑と共にあり続ける。学生がまちを巻き込みつなぐバトンが、花畑のまちに小さなムーブメントを起こしつつある。

**こより酒店**  
 足立区弘道1-35-1  
 ☎ 03-3889-0561

店主の琴寄伸之さん(右)と料理を担当する姉の荒川由紀江さん(左)。伸之さんはもともとレコード好きでたくさん持っていたコレクションを並べ、DJブースも作った。店内のあちこちに酒を飲めるスペースがさりげなく設けられている

**安養院**  
 足立区千住5-17-9  
 03-3881-0686



まるで昔からあったかのように安養院に  
 なじんでいる元・大黒湯の唐破風屋根の  
 前で、内藤住職。1929年(昭和4年)に  
 建築された銭湯のころのままの姿で移築  
 された。屋根下にはシンボルだった大黒  
 様の彫刻を見ることができる

### 大黒湯の屋根を移築し千住の魅力をつなぐ

真言宗豊山派 安養院 住職 内藤良家

「大黒湯は、千住の宝であり、足立区の宝であり、東京の宝であり、ひいては日本の宝。『関東大震災からの復興』の願いが込められ、あの時代にしか建てられなかった文化財だと思います」と語るのは千住の古刹・安養院の内藤良家住職。「それは失くしてしまったら、二度と造れない。間もなく解体されると聞き、なんとか残せないものかと思案しました」と振り返る。

重厚な宮造りの外観から「キングオブ銭湯」として名高かった大黒湯。ある朝の読経中に安養院への屋根の移築を思いつき、解体寸前に大黒湯との交渉が成立。「緑を感じる奇跡的な展開でした」と微笑む。

住職は「あだち銭湯文化普及会」の荒木久美子さんと共同で、クラウドファンディングにも挑戦した。

391人、3百3万1010円の支援を集めて目標を達成。資金を集めただけでなく、「実は大勢の人が持っていた『大黒湯を残したい!』という思いをひとつにまとめる場になったのがよかった」という。

大黒湯の唐破風屋根移築には、宮造り銭湯の建築に精通する西工務店(足立区新田二丁目)の西定治棟梁や、クラウドファンディングのキャラクター「ダイコクさん」をデザインしたアーティストの緒方彩乃さん、安養院の檀家の方々など、様々な人たちの協力が不可欠だった。住職の英断と行動力を起点に、たくさんの思いが「人の輪」となって、移築を実現させた。「古い建物は、宿場町としての千住の魅力です。唐破風屋根を移築した安養院が、これからも人々の拠り所になればうれしい。」



**宇佐美農園**  
 足立区辰沼2-11-16  
 03-3605-3892

小松菜畑で、宇佐美一彦さん(右)と大さん(左)。写真(右)の政子さん(一彦さん妻)と3人で、毎日小松菜と向き合う。ハウスごとに生育時期をずらして年中収穫できる小松菜畑は農林水産大臣賞も受賞する美しさ



### 親子二代、子どもたちに小松菜を届ける

宇佐美農園 宇佐美一彦 & 大

足立区辰沼で江戸時代から続く農家、宇佐美農園。7代目の宇佐美一彦さんは17年前、区内の学校給食用に小松菜の提供を始めた。当時、農園に収穫体験に来ていた小学校の栄養士から、「宇佐美農園の小松菜は食べたら他と全然違う。ぜひ子どもたちに給食で食べさせたい」と懇願された。市場への納品との両立が難しく、断り続けていた。しかし、3年にわたる栄養士の熱意に心を動かされ、「誰か食べているかわからない」より「顔が見える関係を大事にしたい」と学校との契約を決心した。6校からスタートし、今では約50校にまで広がった。

もうひとつ大事にしているのは子どもたちへの「食育」。約20年前から続けている小松菜の収穫体験や出前授業を通して、「愛情、感謝、命をいただくということ」を伝えている。小さな種から45日間、愛情をかけて育てられた小松菜。命の大切さを肌で感じた子どもたちが収穫した後は、ちぎれた葉っぱ一枚も落さない。

「父が長年築いてきたつながりが、コロナ禍のピンチを救ってくれた」と語るのは8代目の大さん。大さんは税理士を目指していた大学在学中、体調を崩した一彦さんに代わり知識ゼロで農業の世界に飛び込み、「最初は死に物狂いだっ」という。次第に「子どもたちとの縁を未来につなげたい」という思いが強くなり、卒業後、家業を継ぐことを決めた。コロナ禍の一斉休校で25トンもの小松菜が行き場を失ったときは、子どもたちが「宇佐美さんを助けて」と親を連れて買いに来てくれた。「今後は足立区産の小松菜を、給食だけでなく足立区産の家庭の食卓にも届けたい」と大さんが抱負を語ってくれた。



## 絵本は子どもに生き方を教えてくれる

子どもたちには絵本の楽しさ、大人には読み語りの大切さを知ってもらうために展開されている「あだち絵本シアター」。この事業、実は区内企業からの寄附で成り立っている。

都内を中心に自転車の駐輪場運営などを営む芝園開発の会長である海老沼孝二さんは「この地域で仕事をさせていただいてお世話になっているので、足立区に寄附をしたいという気持ちがあったんです」と語る。継続的で未来につながる活動に寄附したいと考えていたところ、絵本の朗読会で子どもたちの笑顔や母親のお礼の言葉に触れたことに大きな喜びを感じたのがきっかけとなり、区にゆかりの5社(※)にも声をかけ足立区に寄附。2018年度に区の事業として、海老沼さんたちがネーミング

した「あだち絵本シアター」がスタートした。

自身は幼少期、絵本にはあまり触れてこなかったが、寄附をきっかけに自身も楽しみながら読み語りイベントや運営に参加。お気に入りの絵本もできた。「絵本は子どもにも通じるわかりやすい言葉で、生き方を教えてくれますよね」。

「子どもは好奇心をふくらませ、いろいろな経験をして育ってほしい。そう語る海老沼さんの目は常に未来を見ている。「親子での読み語り」に目を向けたのは、この取組みが20年、30年と続いてほしいとの思いからだ。

「継続しなきゃ意味がないと思う。子どもたちが大人になって、自分の子どもたちに絵本を読んでもらえるまでやりたいね」。



足立区立中央図書館  
読書活動推進係  
☎ 03-5813-3745



あだち絵本シアターで使われている絵本を手に、海老沼孝二さん。自転車の駐輪場運営を通じて、足立区内の放置自転車を減らすことにも尽力してきた



※ あだち絵本シアター寄附者(令和4年度)

- 海老沼孝二氏
- 株式会社建匠 代表取締役 塚越浩之氏
- 株式会社ケンズコミュニティ 代表取締役 塚越伸博氏
- 株式会社芝電機工業所 代表取締役 芝久雄氏
- 芝園開発株式会社 代表取締役 宮本薫氏
- 東京セントラルヒーティング工業株式会社 代表取締役 鎌田秀一氏



有限会社 喜田家  
🏠 足立区千住緑町1-24-20  
☎ 03-3881-3303



千住緑町にある自社工場で見板商品のどら焼きを手にする田口さん。工場内は美しく整頓されており、たくさんの若い職人たちがテキパキと働いていた。写真(左下)は千住大門商店街にある喜田家本店



喜田家社長／田口恵美子

## 小さな地域の縁側を作りたい

「和菓子って地域の縁側だと思うの。おかずでも洋菓子でもない。そこにあることで小さな子どもからお年寄りまで、みんなが笑顔になれるっていうものだから」。

1955年に千住元町で創業。老舗和菓子店「喜田家」の社長として、30年以上会社を牽引する田口恵美子さんは明るい声で語ってくれた。

千住最中、東京100(イチマルイチマル)など、生まれ育った「千住」を名前に取り入れたお菓子も多く、地元愛を感じる。近年も、地元の大学生と一緒に商品開発を行うなど、地域とのコラボは少なくない。そんな田口さんを信頼し、20年以上苦楽を共にする職人も多い。

社長就任以降、そのアグレッシブな姿勢を真似てきた。区内に9店舗を展開するだけでなく、東京スカイツリータウンなど区外出店にも積極的だ。

「話があったら前向きに乗ってきただけ。右脳派だから」。その中には北千住マルイ店や看板商品のどら焼きのラインナップにこだわった上野マルイ店などの成功もあるが、失敗も多いという。

「エネルギーを外に使いすぎたかなって。これからはもっと地元をワクワクドキドキさせたいって思うんですよ」。

千住の古民家をリノベーションして、いつもチンチングラグとお湯が沸いているカフェをやりたい。おいしい日本茶と和菓子が食べられて人が集まる小さな地域の縁側を作りたい。

「私がしっかりしてられるのもあと1500日くらいだからね」。

今年で76歳を迎える田口社長は、今日も走り続ける。



「ナナシノ商店街」は、「思い」という見えないアーケードでつながる商店街。千住から荒川を越えた西新井・梅島エリアに、個性豊かな30〜50代の主に女性店主が集まって結成された。

「思い」でつながる商店街では、加盟店の誰かが声を上げればアイデアがすぐに形になる。そのひとつが「お店を巡って半径2キロの幸せを探す」をテーマに、2022年10月に開催された「ナナシノウィーク」。初のリアルなマーケットをおこなうなど、新たなチャレンジで、地域とのつながりを深めた。

彼女たちが今、このエリアにハマる原点には、実は足立区コンプレックスがある。若い頃は「地元の外に出たかった」。でも、年齢を重ねて気づいた「本当は足立区が好き」という気持ち。秘密の場所が見つかりそうな路地裏や、おせっかいで優しい人たちが魅力のまち。「西新井・梅島エリアの知られざる魅力に気づいて、住む人や新しいお店が増えたらうれしい」と話す。

見えないアーケードで  
つながる商店街



**ナナシノ商店街**  
本木、関原、梅島あたりの、半径2キロのエリアの11店の店主たちがつながってつくる架空の商店街。この日は6人の店主が、メンバーのひとりが営む「子育てカフェeatoco」に集まった。写真(右下)は、ナナシノ商店街ができるきっかけとなったローカルバッグ。各店から出る廃材をパッチワークしたもの



プレゼント企画 あなたの「あだちから」を教えて!

「あだちから」という言葉には「あだちのちから」と「fromあだち」の2つの意味が込められています。まちへの思い、小さな行動が「あだちのちから」に。家の前に花を植えることも、好きなお店をSNSで紹介したり友達に教えたりすることも「あだちから」です。

紙面に登場した「あだちからな人」からプレゼント! ※写真はイメージです

「あだちから新聞」限定!  
**和菓子詰め合わせセット**  
(引き替え券)  
5,000円相当〈4名〉

提供: 喜田家

**宇佐美農園の小松菜**  
(引き替え券)  
2束〈2名〉

引換場所: JA東京スマイルあだち菜の郷

**おまかせパンセット**  
(引き替え券)  
700円相当〈3名〉

提供: Tempus

**DAIKOKU SAN  
オリジナルタオル**  
(3名)

提供: 安養院

**アダチラブセット**  
(5名)

**ナナシノ商店街  
セレクション**

① **テイクアウトドリンク  
or ドリップパック3袋**  
(引き替え券)  
〈1名〉

提供: maruca coffee

② **がんこ梅干し**  
(引き替え券)  
500円相当〈1名〉

提供: はる菜

③ **旬の野菜3点セット**  
(引き替え券)  
800円相当〈1名〉

提供: 野菜日和

④ **ドライフルーツ  
& スコーン**  
(引き替え券)  
〈1名〉

提供: colom

⑤ **ナナシノ商店街  
オリジナルCD**  
(3名)

応募はこちらから!

簡単なアンケートに答えてくださった方の中から抽選でプレゼント!